

解答用紙 (Answer Sheet)

試験科目名 Specialized Subject
理科教育カリキュラム開発 Curriculum Development of Science Education

受験番号 Examinee's number
M

<注意事項>

全てのページに科目名、受験番号を記入すること。

<Notice>

Write the specialized subject and examinee's number in each sheet.

※選択問題については、選択した問題番号を記入してください。

In case of elective questions, write the selected question number.

【解答例】

問題1

「実験器具の不足」や「生徒を取り巻く自然や文化的背景についての理解不足」等サブサハラ地域の現状を鑑みて、妥当に思われる記述があれば正答とする。

Question 1. If there is a statement that seems appropriate in light of the current situation in the Sub-Saharan region, such as "lack of laboratory equipment" or "lack of understanding of the natural and cultural background surrounding students," the answer will be considered correct.

問題2 問題1に示される問題点の解消に資する解答であれば正答とする。

Question 2: Correct answer if the answer contributes to resolving the problem shown in Question 1.

【出題意図】

問題1, 2とも出題されたテーマについて、自身の研究内容と関連付けて論述させるものである。

Both questions 1 and 2 require you to write an essay on the given theme in relation to your own research content.

解答用紙 (Answer Sheet)

試験科目名 Specialized Subject
教育開発計画 Planning for Educational Development

受験番号 Examinee's number
M

<注意事項>

全てのページに科目名、受験番号を記入すること。

<Notice>

Write the specialized subject and examinee's number in each sheet.

※選択問題については、選択した問題番号を記入してください。

In case of elective questions, write the selected question number.

問 1. 持続可能な開発目標 (SDGs) の目標 4 について理解しているかどうかを問うものである。

Question 1. This question assesses understanding of Sustainable Development Goal 4 (SDG 4).

問 2. 持続可能な開発目標 (SDGs) の目標 4 について、自分の関心のある国の達成状況を把握しているかどうかを問うものである。

Question 2. This question assesses awareness of the progress toward achieving Sustainable Development Goal 4 (SDG 4) in a country of interest.

解答用紙 (Answer Sheet)

試験科目名 Specialized Subject	受験番号 Examinee's number
教師教育論 Teacher Education	M

＜注意事項＞
全てのページに科目名、受験番号を記入すること。

<Notice>
Write the specialized subject and examinee's number in each sheet.

※選択問題については、選択した問題番号を記入してください。

In case of elective questions, write the selected question number.

出題の意図：受験者が単に問題を述べるだけでなく、政治、社会などの背景・要因を踏まえて問題を多面的に捉えることができるかを評価する。

出題の意図：受験者が問 1 で多面的に捉えた問題について調査研究を具体的に計画できるかを評価する。

Intent of the question: To evaluate whether the examinee can not only describe the problems but also understand them from multiple perspectives by considering the political, social, and other contextual factors.

Intent of the question: To evaluate whether the examinee can concretely plan research to address and improve the problems analyzed from multiple perspectives in Question 1.

[The page contains faint horizontal lines, suggesting it was part of a lined notebook or document.]

解答用紙 (Answer Sheet)

試験科目名 Specialized Subject
教育開発国際協力 International Development Cooperation in Education

受験番号 Examinee's number
M

<注意事項>

全てのページに科目名、受験番号を記入すること。

<Notice>

Write the specialized subject and examinee's number in each sheet.

※選択問題については、選択した問題番号を記入してください。

In case of elective questions, write the selected question number.

問 1

出題意図

- 学校改善（教育の質、教員養成、学校運営、社会・コミュニティとの連携等）において政府の果たすべき役割に加え、NGO や企業など非政府アクターの役割を考察させる。
- 事例となる国あるいは地域をあげ、3 者の役割を記述することができていれば望ましい解答といえる。

解答例

インドは、BRICs の一角を占める成長途上にある国であるが、都市圏を除けば未だ教育開発に遅れをとっている地域が多くある。都市部において旺盛な教育需要が喚起される一方、農村では必要な学校、教員、教材が不足する場合がいまだにあり、格差が開く一方である。そのため、いかに農村で学校教育の質を向上させるかという課題が横たわるといってよい。

まず、不足する場所に適切に学校、教員を配置するという財政的な努力は政府の責任において引き続き続けていかなければならないだろう。インドはどうしても政府の力が弱く、本来国として力を入れるべき教育分野においても、その発展を市場に任せてしまうため、結果として教育の質がアンバランスなものとなってしまう。これについては政府の責任のもとで教育の質を担保するような施策が行われていかねばならない。

また一方で、教育の質向上に貢献するためのステークホルダーは、政府だけではないことも SDGs には明記されている。NGO や企業も参画し、協働することで教育の質が担保されるビジョンも描くことが可能である。これにはあらゆる方法論が存在するが、ここでは、ICT インテグレーションを取り上げたい。教員が 40 名程度の生徒を前に板書スタイルで教える従来の方法は、教員養成にも時間がかかり、適切な教員配置が学齢期人口増加に追い付かない可能性がある。その場合、オンライン、オンデマンドによって、より多くの人数を教えることができる環境を整えることで、初等・中等教育については、効率性を高めることができ、教育の質向上につながる可能性がある。

問 2

出題意図

国際教育開発の実践における倫理的・構造的課題への理解力と、それをどう乗り越えるかという主体的な問題解決力と批判的思考を問う。

解答例

国際教育開発の現場においては、先進国が開発途上国に対して支援を行う構図が一般的である。しかし、その際しばしば問題となるのが、「知識の非対称性」である。これは、教育の課題やニーズに関する理解、解決策の策定において、先進国側の価値観や専門知が一方的に優位とされる状況を指す。私は、この非対称性こそが支援を持続可能で有効なものにするうえでの障害であると考え。そして、この構造を乗り越えるためには、「現地の知の尊重」と「相互学習の姿勢」が不可欠である。この知識の非対称性を乗り越えるためには、まず現地の教育関係者、住民、そして子どもたち自身の声に耳を傾ける必要がある。教育課題は、外からは見えにくい文脈に根ざしていることが多く、それを捉えるためには、参与観察や聞き取りといった定性的な調査も含め、現地主体の協働が求められる。また、知識の伝達を一方向とせず、支援者自身も現地から「学ぶ」姿勢を持つことが重要である。支援は一方的な「施し」ではなく、知の共有と相互成長のプロセスであるべきである。さらに、教育支援プロジェクトの設計段階から、現地の教育関係者や行政機関を積極的に巻き込み、計画・実施・評価における主導権を現地側に委ねる工夫も必要である。これにより、支援が押しつけでなく「伴走」になるとともに、持続可能性も高まる。国際的には「ローカリゼーション」や「パートナーシップ型協力」として知られており、近年注目が集まっているアプローチである。私はこのような教育支援のあり方に深く関心を持ち、今後は開発教育の現場とアカデミックな学びを架橋する形で貢献したいと考えている。知識の非対称性は一朝一夕に解消されるものではないが、支援の前提そのものを問い直すこと、そして「誰の知をもって教育を支えるか」という根源的な問いを大切にすることで、真に対等な国際教育協力が実現できると信じている。することで、真に対等な国際教育協力が実現できると信じている。

解答用紙 (Answer Sheet)

試験科目名 Specialized Subject
ダイバーシティ・インクルージョン教育研究 Diversity and Inclusion Research in Education

受験番号 Examinee's number
M

<注意事項>
全てのページに科目名、受験番号を記入すること。

<Notice>
Write the specialized subject and examinee's number in each sheet.

※選択問題については、選択した問題番号を記入してください。
In case of elective questions, write the selected question number.

出題の意図

本試験では、ダイバーシティ・インクルージョンの意味やそれを推進するための課題を、それぞれの修士論文で研究しようとしている分野において正確に捉えられているかどうかを図ろうとした。